

# チリの大学における「第三の使命」の起源

— ラテンアメリカの大学におけるエクステンションの黎明期 —

中 島 さやか

## はじめに

近年、日本の大学では研究・教育と並んで社会貢献の役割が重要視されつつあり、文部科学省の2005年の中央教育審議会答申『わが国の高等教育の将来像』でもこの社会貢献が大学の「第三の使命」として示された<sup>(1)</sup>。

日本の大学の社会貢献に関しては、臨時教育審議会答申に続く生涯学習振興整備法施行と大学設置基準などの大綱化を背景に、特に1980年代以降、大学改革の一環としてエクステンション活動と呼ばれる貢献のあり方が奨励されてきたことが指摘されているが、それは生涯学習や産学連携、地域の振興などの分野において目指されている傾向にある<sup>(2)</sup>。

こうした「第三の使命」は日本では比較的新しい大学のあり方であると考えられるが<sup>(3)</sup>、ラテンアメリカの国々では、大学が国家や社会の問題について積極的に関与すべきであるという考え方<sup>(4)</sup>が20世紀前半から広く普及しており、そのために作られた「第三の使命」の制度は一世紀近い伝統を有するものも少なくない。

ラテンアメリカの中でもチリでは大学の「第三の使命」、社会貢献の示す範囲が広く、その内容は一般社会人を対象とした講座や大学の知識や技術をサービスとして提供することに留まらず、国

家の文化的アイデンティティー構築のために、自国の芸術文化を保護・育成・普及する制度を大学内に有し、歴史的には労働者の生活水準向上のための知識伝達・意識改革運動等を積極的に行うなどしてきた。このように、大学は20世紀を通じて幅広い役割を果たし、社会全体に広く影響を与えてきた。

それではチリの大学の第三の使命はどのようにして生まれたのであろうか。本研究ではまずこのチリの大学における「第三の使命」の現在の内容に関する概略を紹介し、その歴史的な起源及び初期のありかたを他のラテンアメリカの大学の例にも言及しながら分析する。

## チリの大学の「第三の使命」の内容

チリを含む多くのラテンアメリカの国々では、大学の役割とは教育、研究、エクステンション・ユニベルシタリア（*extensión universitaria*、以下、エクステンション<sup>(5)</sup>）の3つであるという認識が大学人の中で広く浸透しており、これらはしばしば大学の使命の“*tríada*（トライアード）”という表現で呼ばれる。ラテンアメリカにおいて大学の「第三の使命」とはこのエクステンションを指し、正規の登録学生に対する教育活動、そして研究活動以外の大学の活動は、通常このエクステンションに分類されている。

チリの大学が行っているエクステンションの活動内容は幅広いが、チリ本国でエクステンションが研究対象として取り上げられることは非常に少ない。その主な理由としては以下の二点が考えられる。一つ目は、現在チリの大学においてエクステンションは研究や教育活動と比較すると大学組織全体の中であまり重要視されない傾向があること。そして二つ目としては、チリの大学人の間では大学が幅広いエクステンション活動を行うことは一般的なことであると考えられており、高等教育研究や文化史に携わる研究者の間でも世界の大学史の中でチリのエクステンションがかなり特殊な位置付けにあるという意識は薄い傾向にあったことがあげられる。そのため研究成果は非常に限られており、チリのエクステンションの全体像や制度の歴史的な発展がわかる体系的な研究は近年のものでは皆無に等しいが、ドノソ・イバニェス(1993)はチリの大学のエクステンションの活動の全体的な傾向を分析し、1. 芸術・文化のエクステンション、2. アカデミックなエクステンション、3. サービスとしてのエクステンションの3種類に分類した。それぞれの意味する内容は以下の通りである。

#### 1. 芸術・文化のエクステンション

芸術分野の作品を一定の人々に提供すること。コンサートや美術作品の展示会、演劇の上演、映画の上映、文化一般のテーマに関する講演、その他関連分野のもの。必ずしもアカデミックや研究や思索の結果である必要はなく、製作者や著者の解釈、作品の紹介や展示などが含まれる。

#### 2. アカデミックなエクステンション

a) 新しいアカデミックな研究や思索の成果を紹介・普及させる活動。

b) 人々が最新の知識を得たり知識を再活用できる機会を提供すること。生涯教育や継続教育とも呼ばれる。

c) アカデミックなテーマに関してある特定の、もしくは一般の人々とインタラクションを行う、またはそれに参加できる場を設けること。

#### 3. サービスとしてのエクステンション

顧問、コンサルタント、調査、継続的に行う管理、病院や診療所で行う医療・社会学的行為、出版局の出版活動、(ラジオ・テレビ・雑誌など)大学が所有するメディア媒体を通じた伝達やプロモーションなどのサービス、大学の元学生や後援者との交流、その他の活動<sup>(6)</sup>(筆者訳)。

ドノソ・イバニェスが分析したチリの大学のエクステンションの傾向は現在もあまり変わらないが、1の芸術・文化のエクステンションには作品の紹介や展示だけでなく、国内の芸術文化を保護・育成する役割も含める必要がある。チリでは国内の幾つかの代表的な音楽団体や劇団、バレエなどは大学に所属し保護されている<sup>(7)</sup>。

ドノソ・イバニェスの3つの分類の中で1の芸術・文化のエクステンションについては“difusión cultural (「文化の普及」)”と別の用語を用いている大学もあるが、この“difusión cultural”の意味する内容もエクステンションという用語で包含できるので、本稿では以下、チリを含むラテンアメリカの大学の「第三の使命」を「エクステンション」という用語で統一し、その起源と初期のあり方について分析していく。

### ラテンアメリカの大学におけるエクステンションの初期とは

1918年に起こったアルゼンチン、コルドバ大

学の大学改革運動はチリも含めたラテンアメリカ全般に大きなインパクトを与え、その影響はラテンアメリカの各地に広がった。コルドバの大学改革運動以降、ラテンアメリカの様々な国の大学でエクステンションのあり方が模索され大きく発展したため、コルドバの大学改革運動をラテンアメリカの大学のエクステンションの出発点と見なす研究者もいる<sup>(8)</sup>。しかし、現在チリ本国でもエクステンションは研究対象として取り扱われることはあまりないため殆ど知られていないが、この改革運動以前のラテンアメリカにもエクステンションは存在していた。本研究ではこの改革運動以前に存在していたエクステンションの活動を初期のエクステンションとみなし、分析の対象とする。

### チリのエクステンションの起源

チリの大学が北米やヨーロッパの大学で既に使われていたエクステンションという用語を用いたことや、当時のチリの大学人が留学や知識人との交流を通じて北米やヨーロッパの大学の影響を受けていたことを考慮すると、チリの大学のエクステンションも北米やヨーロッパのモデルにインスピレーションを受けて作られた制度であると考えられる。しかし、具体的にどの国のどの大学のモデルが参考にされたという明確な記録や報告は現在まで見つかっていないと思われる。

チリのエクステンションの歴史を分析するには、チリの大学人に影響を与えた北米やヨーロッパの大学のエクステンション、そしてチリの各大学を取り巻くそれぞれの社会的・文化的事情以外にも、ラテンアメリカ諸国の大学を取り巻く一般的な状況を理解することが不可欠である。それは、ラテンアメリカ諸国で大学の発展に寄与してきた知識人や学生リーダーは 20 世紀初頭から互いに影響

を与え合ってそれぞれの地域にエクステンションを発達させてきた、という歴史的な経緯があるからである。従って、本稿でチリの初期のエクステンションを分析するにあたっては、ラテンアメリカの他の国のエクステンションの歴史的経緯に関して幾つか言及する。

ラテンアメリカで最初にエクステンションが検討されたのは、おそらくメキシコである。デ・マリア・イ・カンボス (1983) は法律家でもあったメキシコの知識人フスト・シエラ (Justo Sierra) が準備した 1881 年のメキシコ国立大学 (Universidad Nacional de México: 現メキシコ国立自治大学) の法案にエクステンションが盛り込まれていたことを指摘している<sup>(9)</sup>。メキシコ国立大学がこの名の下に実際に設置されたのは 20 世紀に入ってからの 1910 年であったが、1880 年代にメキシコで既にエクステンションが検討されていた事実は興味深い。

チリの大学におけるエクステンションの最初の記録は 1905 年に遡る。20 世紀前半を通してチリ大学で芸術・文化の分野におけるエクステンションの制度化に大きく寄与した音楽家ドミンゴ・サンタ・クルス (Domingo Santa Cruz) は、チリの哲学者であり急進的な政治家としても知られたバレンティン・レテリエール (Valentín Letelier) がチリ大学にエクステンションのプログラムを提案し、そのころから活動が始まったことを記録しているが<sup>(10)</sup>、このことから少なくとも 20 世紀の初頭にはチリの大学人の一部にエクステンションが知られていたことが伺える。

19 世紀の終わりから 20 世紀の初頭は北米、ヨーロッパを中心に世界各地でエクステンションの運動が盛んに行われていた時期であった。ラテンアメリカの “Extensión Universitaria” という用語の元になった英語の “University Extension”

の起源は19世紀中ごろのイギリスに遡るが、“University Extension”はイギリスでは19世紀後半、正規の登録学生を対象にしたコースに入学できない人々を対象に大学教育を提供するための拡張講座として発達した<sup>(11)</sup>。イギリスの大学のエクステンション運動が世界の大学に与えた影響は大きく、後に世界各地に広まっていった。

アメリカ合衆国の大学は歴史的にチリを含むラテンアメリカの多くの大学に影響を与えて来たが、そこでも1890年代にイギリスのモデルが導入された。しかしアメリカの大学では1900年代に入るとイギリス式の大学拡張講座は下火になり、代わりに大学が地域社会への実用的なサービスを主体的に提供するという新しいエクステンションに変化して行く<sup>(12)</sup>。

ラテンアメリカの大学が影響を受けたエクステンションとしては、これらの英米のモデルの他に、エクステンションが独自の形で発達した「人民大学 (Universidad Popular)」と呼ばれるフランスを中心とするラテン系のモデルがあることが指摘されている<sup>(13)</sup>。

1899年にパリで最初に誕生した人民大学は主に労働者を中心とする一般大衆向けに講義や講座を夜間に提供した組織である。トレス・アギラル (2009)によると、イギリス式のエクステンションが設備や教授陣など、大学の「資源 (recursos)」を利用できたのに対し、フランス式の人民大学は大学や公的な機関からは独立した形で設立され、会員や労働組合、時には地方自治体の協力によって運営されていた。フランスの人民大学は当時のヨーロッパ社会に大きなインパクトを与え、ポーランドやベルギー、イタリアなどでモデルとされ、アメリカ大陸にも20世紀の最初の20年間に広がった<sup>(14)</sup>。

この他にも、スペインのオビエド大学のエク

ステンション<sup>(15)</sup>やマドリードの人民大学<sup>(16)</sup>などラテンアメリカの大学への影響が指摘されているモデルもあるが、いずれもチリの大学や大学人が直接的な影響を受けたと特定できるものではない。チリのエクステンションはこの時代のヨーロッパや北米の様々なエクステンション運動、そしてそれに触発されたラテンアメリカの大学人等の影響の元に作られたと考えられる。

### チリの初期のエクステンション

それでは、チリにおける初期のエクステンションはどのようなものだったのだろうか。チリ大学で最初にエクステンションの活動を開始したバレンティン・レテリエールはドイツに学んだ知識人であったが、1892年に出版した『教育哲学』という本の中で、大学は「国家の問題に積極的に関り、伝統や慣習によって個人の行動を硬直化させる環境に対する人々の批判的意識を高揚させなくてはならない」(筆者訳)と述べ、大学が積極的な社会的責任を負うべきではないかと問うている<sup>(17)</sup>。レテリエールは1906年に学長に就任し、当時職業訓練校の状態になっていると指摘されていたチリ大学を批判し、教育・研究など様々な分野に及ぶ改革案を進めていった。その中にはチリで科学・文化を創ることが含まれており、美術学校や美術館、美術と音楽の専門機関を大学内に作るなどして国の文化活動の振興に務めた<sup>(18)</sup>。このように、チリの最初のエクステンションは、チリ大学が社会に対し積極的に貢献し、国の科学や文化を推進する役割を果たすように行われたレテリエールのチリ大学改革プロジェクトの一環として導入された。

サンタ・クルス (1982) は当時のチリ大学のエクステンションについて、「講義形式で科学を普

及し……」という表現で描写し、チリ大学のエクステンションが国家教育協会<sup>(19)</sup>とサンチアゴのアテネオ<sup>(20)</sup>の協力の基に作られたとしているが、当時のエクステンションの活動を知る上で、サンチアゴのアテネオが参加していた事実は多くのことを意味する。

サンチアゴのアテネオに関する資料は少ないが、もとは1888年に設立された文芸のための集まりだったとされている。このアテネオはかなり初期の段階からハイカルチャーを中心とする文化の普及を図るため、国内外の専門家を招いて科学など幅広いテーマに関する講義を行い、当時のサンチアゴで他に類を見ない程多くの知識人や学生が集まる重要な文化的集まりに発展していった<sup>(21)</sup>。このことから、チリ大学の最初のエクステンションは、サンチアゴのアテネオの活動を受け継いだアカデミックな講義が中心であったことが伺える。

こうしたアカデミックなエクステンションと並行して、チリ大学では、ほぼ同時期に方向性の異なるエクステンション運動が行われるようになっていた。それは、主に労働者階級の人々と連携し、労働者を中心とする一般大衆に広く知を提供しようというもう一つのエクステンション運動である。

ラテンアメリカでは20世紀の最初の10年にこうした労働運動と結びついた学生運動が各地で起こり始めたことが報告されているが<sup>(22)</sup>、チリでは20世紀初頭にチリ大学の学生組織（La Federación de Estudiantes de la Universidad de Chile：以下、Fech）が1906年に学長レテリエールの認可を得て正式な組織として発足し、こうしたエクステンションの活動を行い始めている。

Fechと交流があり、後に国立工科大学の学長となったエンリケ・キールベルグ（Enrique Kirberg）は初期のFechが行っていた活動について次のように記している。「Fechはチリ大学

の法学部や医学部で労働者向けの教育活動を行っており、1910年には最初の労働者のための学校を設立した。1916年ごろには労働者や貧しい人々のための教育センターや、法律、医療、歯科治療などのサービスを提供する場を11箇所所有していた（筆者訳）」<sup>(23)</sup>。

Fechの活動は国内のみに留まらず、1908年のウルグアイ、モンテビデオの国際学生会議でエクステンションの必要性をラテンアメリカの他の大学人や学生にうたえる<sup>(24)</sup>など、初期の段階から対外的・国際的な活動も行っていった。

前述のように、ラテンアメリカの大学が閉鎖的なエリート教育中心のあり方を見直し、国家や社会に対して広く貢献することになった出発点として1918年のコルドバの改革運動に言及されることが少なくないが、実際にはこうしたチリの例にも見られるように、20世紀初頭から学生組織らが社会貢献を行う活動を開始していたのである。

## ラテンアメリカにおける初期の人民大学の例

ラテンアメリカのエクステンションのもう一つのモデルであった人民大学の運動も20世紀初頭から1910年代に始まっている。歴史家リカルド・メルガル・バオ（Ricardo Melgar Bao）は、アルゼンチンで社会党が1904年にブエノスアイレスに人民大学を設立した可能性、そして1909年に労働者のための大学が作られたことを指摘しているがいずれも短期的なものだった<sup>(25)</sup>。

コルドバの大学改革運動以前に設立されたラテンアメリカの人民大学の中で最も文化的なインパクトを与えたのはメキシコのモデルであると思われる。

メキシコの人民大学は「科学が祖国を守る」<sup>(26)</sup>

をスローガンに、当時国内の第一級の知識人や文化人が参加していたメキシコのアテネオのメンバーによって1912年に設立された<sup>(27)</sup>。

設立の立役者の一人だったメキシコの高名な知識人アルフォンソ・レジェス（Alfonso Reyes）は、この大学について「我々は高等教育にお金を払うことができない、または学校に行く時間がない人々を対象に、初等教育のプログラムに含まれていないが、必要不可欠である知識を届けるため、こうした人々の元へ彼らの仕事場や施設まで出向く一団である人民大学を1912年12月13日に設立した（筆者訳）」<sup>(28)</sup>と記している。

メキシコの人民大学の目標は設置の規定に示されているが<sup>(29)</sup>、メキシコ人、特に労働者階級の人々の文化水準を向上させることであった。メキシコの人民大学が行った講座の内容は、算数、国語、料理、衛生といった日常生活に密着したテーマのほかにも科学、芸術、工業など多岐にわたり、アカデミックな研究成果を普及させる講演活動なども行われていた。さらに特徴的な点として宗教や政治のテーマが禁止されており、そして講義や講座のほかにも、国の文化を普及させるためのコンサート、音楽会、写真や芸術作品の展示会、美術館・博物館・史跡・遺跡訪問など、実に様々な文化的イベントが同時に行われていたことがあげられる。場所も、大学だけでなく工場や労働組合など労働者の集まる場所であったり、博物館、その他要請された場所に文字通り「出向く」（原語では“volante”で「飛ぶ」の意）ものであり、一定していなかった<sup>(30)</sup>。

人民大学の活動はメキシコ革命の困難な時代にも継続的に行われ<sup>(31)</sup>、また、講師は給料を受け取らず大学も寄付でまかなわれていたことから、国民の文化水準や文化の発展という参加者の文化的ナショナリズム的な側面に強く支えられていた

ことが伺える。アルフォンソ・レジェスはこの人民大学の運動を、「文化の世界における最初の革命的な参与（incursiones）の一つ」と表現したが、当時文化の分野に大きなインパクトを残した一大プロジェクトであった。

メキシコの人民大学は他のラテンアメリカの国々の知識人にも影響を与えたが、人民大学そのものは1920年を境に活動を停止したと考えられており、以後、その精神や活動内容はメキシコ国立大学（後のメキシコ国立自治大学）のエクステンションなどを中心に、形を変えて受け継がれていくことになった<sup>(32)</sup>。

## チリの人民大学

チリでも19世紀の政治家・知識人の名を冠したビクトリノ・ラストリア人民大学（la Universidad Popular Victorino Lastarria）が1918年に設立された。この機関に関する資料は少ないが、メキシコの人民大学がフランスの人民大学のように従来の大学やその関連機関とは独立した形で作られたのに対し、ビクトリノ・ラストリア人民大学は後にチリ大学の学長も務めた哲学者ペドロ・レオン・ロヨラ（Pedro León Loyola）が中心となり設立され<sup>(33)</sup>、Fechの運営下にあった<sup>(34)</sup>。

トレス・アギラールはメキシコの人民大学と南米の人民大学の一般的な傾向とを比較し、南米の人民大学に政治的要素が強いことを指摘したが<sup>(35)</sup>、チリのビクトリノ・ラストリア人民大学に関してはそれを裏付けるキールベルグの記録がある。

「この大学（ビクトリノ・ラストリア人民大学）は、労働者の知的水平を広げ、彼らが自分達の社会的問題について考察することを刺激す

るように作られていた。当初、決まった授業のプログラムはなく、作家やプロのアーティスト、学生その他重要な人々で、このような種類の教育に関心のある人が夜間、講演を行うよう招待され、哲学や物理学、天文学、文学、その他幅広いテーマに関して講演を行った。後に幾つかのコースが体系的なものになり、初等・中等教育と似たようなプログラムになっていった。また、建築学の学生が長い間——20年、30年にわたって——建設関係の労働者に夜間学校を行った（筆者訳）<sup>(36)</sup>。

このように、チリの人民大学では労働者階級の人々に対し、様々な分野の文化的な知識を与える授業が行われていたが、それはキールベルグによると「彼らが自分達の社会的問題について考察する」ことを促す形式になっていた。この時代、左翼傾向のある知識人や学生の間には彼らと労働者階級との連帯を強める必要があるとの認識が共有されていたが、人民大学の活動の参加者にも活動を通じて労働者の政治・社会的問題に関する意識を向上させ、最終的には政治運動につなげるような意図がある人々が少なくなかった。

以上のことからチリの人民大学の設立も、ヨーロッパやラテンアメリカの人民大学の運動の流れの中に位置づけられるものであることが理解できる。しかし、当時のラテンアメリカの代表的なモデルであるメキシコの人民大学と比較すると、文化的側面よりも労働運動的な側面や社会批判といった政治的側面が強く、また大学の学生組織が中心的な役割を果たしており、大学の関与が強いところが特徴的であるといえる。

## チリにおける初期のエクステンションの社会での認知度

チリではこのように、20世紀初頭にチリ大学でエクステンションの活動が開始され、1910年代には人民大学も設立された。しかし、初期のこうしたエクステンションの活動が、当時のチリ社会や大学人に大学の「第三の役割」として広く認識されていた可能性は少ないと考えられる。それは、著名な教育家であり、1919年に現在のチリの主要大学の一つであるコンセプション大学を設立したエンリケ・モリナ（Enrique Molina）がチリの大学のエクステンションに関して後述するようなコメントを残していることからもうかがえる。

モリナは、チリ政府の派遣で1918年10月から1919年6月にかけてカリフォルニア大学やウィスコンシン大学、ハーバード大学他、当時のアメリカを代表する大学を幾つか訪れ、アメリカの高等教育に関してチリ政府に報告をまとめた。モリナは其中で、州立大学を中心とするアメリカの大学がエクステンションを通じて社会に直接的なサービスを提供し、地域の共同体が抱える問題に関心を示して行動を起こすことに感銘を受けたことを記した上で<sup>(37)</sup>チリの大学を振り返り、「（チリの大学には）エクステンションは何もない」と述べた<sup>(38)</sup>。モリナが当時のチリの高等教育の事情を知る専門家であり、メキシコのアテネオにも参加したラテンアメリカレベルの知識人であったことを考慮すると、チリ大学を中心とする初期のエクステンションの活動が当時のチリ社会で広く認識されていたとは考えにくいのではないだろうか。

## おわりに

以上、大学の第三の役割である社会貢献の活動の幅が広いチリのエクステンションの起源と初期のあり方を他のラテンアメリカの国の例にも言及しながら分析した。

チリの初期のエクステンションは、英米のエクステンションやフランスの人民大学をはじめとする様々な国のエクステンションの運動、そしてそれに触発されたラテンアメリカの様々な大学の影響を受けながら作られたものであると考えられる。

しかし、チリ大学で最初にエクステンションの活動を開始したレテリエールの「大学が国家の問題に積極的に関る」という思想や、その活動が国家の文化活動を振興するプロジェクトの中に位置づけられることなどから、初期の段階から文化のナショナリズム的要素を含んでいたといえる。また、学生組織が中心となって行った労働者向けのサービスや人民大学の活動の背景には、労働者の社会問題に関する意識を向上させるという政治的意図もあり、成人教育や公共サービスの枠に収まらない政治的要素を含んだ文化運動であったことが理解できる。

後に Fech は人民大学の活動に関して、政府が行っていない労働者のための活動を彼らが行っているとその機関紙でコメントしているが<sup>(39)</sup>、このことからチリの初期のエクステンションは、労働者の生活改善や国の文化水準の向上など、当時の政府が行っていない、または十分に行うことできなかった活動を、学生組織や大学内外の知識人が大学という枠を用いながらも従来の大学の境界線を越えて行い、大学と社会との関係のあり方を模索した初期の形式であったといえる。

チリの初期のエクステンションは当時の社会に

おける認知度は高くなかったと推測できるが、コルドバの大学改革以降、1920年、30年代とその活動の範囲を拡大し、国民文化の保護・育成・普及、労働者階級の人々や海外の学生も含む教育活動など、社会全体に影響力を与える活動に発展していくことになる。

## 注

- (1) 平成17(2005)年1月に出された文部科学省の中央教育審議会答申「わが国の高等教育の将来像」の第1章、「新時代の高等教育と社会」では次のような指摘がされている。「大学は教育と研究を本来的な使命としているが、同時に、大学に期待される役割も変化しつつあり、現在においては、大学の社会貢献(地域社会・経済社会・国際社会等、広い意味での社会全体の発展への寄与)の重要性が強調されるようになってきている。当然のことながら、教育や研究それ自身が長期的観点からの社会貢献であるが、近年では、国際協力、公開講座や産学官連携等を通じた、より直接的な貢献も求められるようになっており、こうした社会貢献の役割を、言わば大学の「第三の使命」としてとらえていくべき時代となっているものと考えられる。／このような新しい時代にふさわしい大学の位置付け・役割を踏まえれば、各大学が教育や研究等のどのような使命・役割に重点を置く場合であっても、教育・研究機能の拡張(extension)としての大学開放の一層の推進等の生涯学習機能や地域社会・経済社会との連携も常に視野に入れていくことが重要である」〈[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013101/002.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013101/002.htm)〉(2013.1.29)。
- (2) 五島敦子『アメリカの大学開放——ウィスコンシン大学拡張部の生成と展開——』学術出版会、2008年6月、13頁を参照。
- (3) 日本における大学開放研究の第一人者の一人である香川正広は、「第三の使命」という用語は用いてないが、日本の「大学拡張」が世界の大学拡張の長い歴史の先端にあり明治・大正・昭和にかけて成人教育の試みを行っていたとしながらも、本格的な取り組みが始まったのは、国立大学では1973年の東北大学教育開放センター、私立では1981年の早稲田大学のエクステンションセンターなど、大学に専門部局が設置されてからだろうとしている。「わが国における大学開放発展の課題」



- 小野元之・香川正弘編著『広がる学び開かれる大学：生涯学習時代の新しい試み』ミネルヴァ書房、1998年、236-237頁。
- (4) この考え方はスペイン語では *compromiso social* と表現されることが多い。
- (5) 英語の “university extension” にあたる。香川正弘 (1998) は日本の大学開放の定義が曖昧であることを指摘したが、実際に日本の “university extension” は訳語だけでも「大学教育普及」「大学拡張」「大学開放」「エクステンション活動」など数種類あり、定義も様々である。こうした用語の用法や実際の活動の内容は各大学によって異なると考えられるが、日本では生涯教育、産学協同、地域社会との連携などの文脈で取り上げられる傾向があると思われる。しかし、チリのエクステンションは日本の大学開放の概念には収まりきれない幅広い内容を意味するので本稿では日本語の訳語を用いず、スペイン語の *extensión* をカタカナ読みで使用する。香川正弘、前掲書、229-231頁参照。
- (6) Patricio Donoso Ibáñez, *Extensión universitaria en Chile: una aproximación para su Análisis*, CPU, Santiago de Chile, 1993, pp. 14-15.
- (7) チリ大学のオーケストラ、バレエ団、劇団、コーラスグループが代表的な例である。チリの大学で音楽や演劇などのグループが雇用されている場合、その主目的の一つが国内の文化の保護・育成であるため、雇用されるアーティストは必ずしも学内で教育活動に従事する義務があるわけではない。
- (8) 例えば、ラテンアメリカのエクステンションの研究の分野で古典的な Carlos Tünnermann Bernheim の *El nuevo concepto de extensión universitaria y difusión cultural*, Universidad Nacional Autónoma de México Coordinación de Humanidades Centro de Estudios sobre la Universidad, 1978 やベネズエラの Eleazar Ontiveros の *Extensión Universitaria: Un compromiso con la historia*, Universidad de Los Andes, Mérida, Venezuela 1980 などがこの例にあたる。
- (9) Alfonso de María y Campos, “Panorama histórico de la extensión universitaria”, *Memoria I coloquio de extensión académica*, Dirección General de Extensión Académica, UNAM, p. 12. によると法案の第一条、大学の目的のところに “difundirla por trabajos de extensión universitaria y contribuir al desarrollo de la cultura en todos sus grados” とあり、エクステンションの役割が明記されている。
- (10) Domingo Santa Cruz, “Medio siglo de vida universitaria: 1900-1950 en torno al Rectorado de don Juvenal Hernández”, *Cuadernos de la Universidad de Chile* No. 1, Santiago de Chile, 1982, pp. 17-18.
- (11) イギリスの大学のエクステンションに関しては、香川正弘、前掲書、川添正人「英国大学拡張運動研究：その1」、『地域総合研究』、24(2)、17-34頁、1997年及び「英国大学拡張運動研究—その2(遺稿)」、『地域総合研究』1998年、25(2)、13-27頁、Lawrence Goldman の *Dons and Workers: Oxford and Adult Education Since 1850*, Clarendon Press, 1995などを参考にした。
- (12) アメリカの大学のエクステンションに関しては、五島敦子「20世紀初頭アメリカにおける大学拡張運動の歴史像：研究の成果と課題」、『名古屋大学史紀要』第12号、93-120頁、2004年3月、『アメリカの大学開放——ウィスコンシン大学拡張部の生成と展開——』学術出版会、2008年6月を参考にした。
- (13) Carlos Tünnermann Bernheim, *op. cit.*, p. 9.
- (14) Morelos Torres Aguilar, “Extensión universitaria y universidades populares: el modelo de educación libre en la Universidad Popular Mexicana (1912-1920)”, *Historia de la Educación Latinoamericana*, No. 12, Tunja, Universidad Pedagógica y Tecnológica de Colombia, Rudecolombia, 2009, pp. 203, 205.
- (15) John C. Super “Los orígenes de la extensión en la universidad latinoamericana”, *Revista Universidades* No. 6, Unión de Universidades de América Latina, julio-diciembre, México, 1993, p. 9. で John C. Super はスペインのオビエド大学のエクステンションがラテンアメリカの大学人に影響を与えた可能性を指摘している。
- (16) Morelos Torres Aguilar, *op. cit.*, p. 206.
- (17) Valentín Letelier, *Filosofía de la educación*, Imprenta Cervantes, Santiago de Chile, 1892, pp. 543-547.
- (18) Domingo Santa Cruz, “Medio siglo de vida universitaria: 1900-1950 en torno al Rectorado de don Juvenal Hernández”, *Cuadernos de la Universidad de Chile* No. 1, Santiago de Chile, 1982, pp. 18-19.
- (19) 国家教育協会の原語は La Asociación de Educación Nacional.

- (20) 原語では El Ateneo de Santiago。チリにアテネオと呼ばれる集まりは複数存在したが、それを区別するために通常 de Santiago (サンチアゴの)、de Temuco (テムコの) など、活動が行われていた場所の地名を用いる。
- (21) サンチアゴのアテネオの歴史的な発展に関しては Ambrosio Rabanales, *Ateneo de Santiago, por el conocimiento de la ciencia y la literatura (1888-1996): Cultura y permanencia*, Ediciones Ateneo, Santiago de Chile, 1997 で比較的簡潔にまとめられている。
- (22) Melgar Bao, Ricardo, *Las universidades populares en América Latina 1910-1925, Pacarina del Sur*, No. 5, octubre-diciembre, México, 2010. <<http://www.pacarinadelsur.com/home/amautas-y-horizontes/149-las-universidades-populares-en-america-latina-1910-1925>> 2013. 1. 28. これによると労働運動と結びついた学生運動がアルゼンチンでは 1903 年及び 1906 年に、チリでは 1906 年に、ペルーでは 1909 年に、グアテマラでは 1911 年に、メキシコでは 1910 年、1912 年そして 1914 年に起きている。
- (23) Enrique Kirberg, *Los Nuevos Profesionales: Educación Universitaria de Trabajadores Chile: U. T. E. 1968-1973*, Instituto de Estudios Sociales Universidad de Guadalajara, México, 1981, p. 210.
- (24) John C. Super, *op. cit.*, p. 8. このような国際会議はブエノスアイレスで 1910 年にリマで 1912 年に行われているが、この時期の学生組織の国際会議は後のエクステンションの活動に重要な影響を与えている。
- (25) Ricardo Melgar Bao, *op. cit.*
- (26) 原語では “la Ciencia Protege a la Patria”.
- (27) Morelos Torres Aguilar, *Cultura y revolución: La Universidad Popular Mexicana (ciudad de México, 1912-1920)*, UNAM, Coordinación de Humanidades, México, 2010, pp. 265-268.
- (28) Alfonso Reyes, *Pasado inmediato y otros ensayos* より。Alfonso Reyes, *Obras completas de Alfonso Reyes, XII*, Letras mexicanas, Fondo de Cultura Económica, México D. F., 1960, p. 213.
- (29) “Acta Constitutiva de la Universidad Popular”, en Antonio Caso, et al., *Conferencias del Ateneo de la Juventud*, UNAM, México D. F., 2000, p. 375.
- (30) メキシコの人民大学の具体的な活動については

Torres Aguilar (2010) に詳しい。

- (31) Alfonso De María y Campos, *op. cit.*, p. 13.
- (32) Morelos Torres Aguilar, *op. cit.*, pp. 615-623.
- (33) El Secretario General de la Universidad Popular Lastarria, “Reorganización de la Universidad Lastarria”, *Claridad*, Vol. 2, No. 51, Santiago de Chile, 1922.
- (34) Daniel Schweitzer, “La Universidad Popular Lastarria en 1922”, *Claridad*, Vol. 2, No. 51, Santiago de Chile, 1922. 及び “La Universidad Popular Lastarria a los Obreros”, *Claridad*, Vol. 5, No. 126, Santiago de Chile, 1924 から。
- (35) Morelos Torres Aguilar, *op. cit.*, pp. 211-212.
- (36) Enrique Kirberg, *op. cit.*, p. 211.
- (37) Enrique Molina, *De California a Harvard Estudio sobre las universidades norteamericanas y algunos problemas nuestros*, Soc. imp. y lit. Universo, Santiago de Chile, 1921, pp. 37, 84, 187-188.
- (38) *Ibid.*, p. 230.
- (39) Daniel Schweitzer, loc. cit.

#### 引用・参考文献

- 小野元之・香川正弘編著『広がる学び開かれる大学：生涯学習時代の新しい試み』ミネルヴァ書房，1998年。
- 川添正人「英国大学拡張運動研究：その1」、『地域総合研究』，24(2)，17-34頁，1997年。
- 川添正人「英国大学拡張運動研究——その2(遺稿)」、『地域総合研究』1998年，25(2)，13-27頁，1998年。
- 五島敦子「20世紀初頭アメリカにおける大学拡張運動の歴史像：研究の成果と課題」、『名古屋大学史紀要』第12号，93-120頁，2004年3月。
- 五島敦子『アメリカの大学開放——ウィスコンシン大学拡張部の生成と展開——』，学術出版会，2008年6月。
- Caso, Antonio, et al, *Conferencias del Ateneo de la Juventud*, UNAM, México D. F., 2000.
- De María y Campos, Alfonso, “Panorama histórico de la extensión universitaria”, *Memoria I Coloquio de Extensión Académica*, Dirección General de Extensión Académica, UNAM, México DF, 1983.
- Donoso Ibáñez, Patricio, *Extensión universitaria en Chile: una aproximación para su análisis*, CPU, Santiago de Chile, 1993.
- Goldman, Lawrence, *Dons and Workers: Oxford and*

- Adult Education Since 1850*, Clarendon Press, Oxford, 1995.
- Kirberg B., Enrique, *Los Nuevos Profesionales — Educación Universitaria de Trabajadores Chile: U. T. E. 1968-1973*, Instituto de Estudios Sociales Universidad de Guadalajara, México, 1981.
- Letelier, Valentín, *Filosofía de la educación*, Imprenta Cervantes, Santiago de Chile, 1892.
- Melgar Bao, Ricardo, Las universidades populares en América Latina 1910-1925, *Pacarina del Sur*, No. 5, octubre-diciembre, México, 2010. <<http://www.pacarinadelsur.com/home/amas-y-orizontes/149-las-universidades-populares-en-america-latina-1910-1925>> 2013. 1. 28.
- Molina, Enrique, *De California a Harvard: estudios sobre las universidades norteamericanas y algunos problemas nuestros*, Universo, Santiago de Chile, 1921.
- Ontiveros, Eleazar, *Extensión Universitaria: Un compromiso con la historia*, Universidad de Los Andes, Mérida, Venezuela, 1980.
- Rabanales, Ambrosio, *Ateneo de Santiago, por el conocimiento de la ciencia y la literatura (1888-1996): Cultura y permanencia*, Ediciones Ateneo, Santiago de Chile, 1997.
- Reyes Alfonso, *Obras completas de Alfonso Reyes, XII, Letras mexicanas*, Fondo de Cultura Económica, México D. F., 1960.
- Sánchez Durán, Fernando, *El Ateneo de Santiago: Tradición y excelencia (1888-1991)*, Ateneo de Santiago, Ediciones ATENEO, Santiago de Chile, 1992.
- Santa Cruz, Domingo, “Medio siglo de vida universitaria: 1900-1950 en torno al Rectorado de don Juvenal Hernández”, *Cuadernos de la Universidad de Chile* No. 1, Santiago de Chile, 1982, pp. 9-56.
- Schweitzer, Daniel, “La Universidad Popular Lastarria en 1922”, *Claridad*, Vol. 2, No. 51, Santiago de Chile, 1922.
- Secretario General de la Universidad Popular Lastarria, “Reorganización de la Universidad Lastarria”, *Claridad*, Vol. 2, No. 51, Santiago de Chile, 1922.
- Super, John C. “Los orígenes de la extensión en la universidad latinoamericana”, *Revista Universidades* No. 6, Unión de Universidades de América Latina, julio-diciembre México, 1993.
- Torres Aguilar, Morelos, “Extensión Universitaria y Universidades Populares: El Modelo de Educación Libre en la Universidad Popular Mexicana (1912-1920)”, *Historia de la Educación Latinoamericana*, No. 12, Tunja, Universidad Pedagógica y Tecnológica de Colombia, Rudecolombia, 2009, pp. 196-219.
- Torres Aguilar, Morelos, *Cultura y revolución: la Universidad Popular Mexicana (ciudad de México, 1912-1920)*, UNAM, Coordinación de Humanidades, México, 2010.
- Tünnermann Bernheim, Carlos, *El nuevo concepto de extensión universitaria y difusión cultural*, Universidad Nacional Autónoma de México, Coordinación de Humanidades Centro de Estudios sobre la Universidad, México DF., 1978.
- 著者不明の雑誌記事  
 “La Universidad Popular Lastarria a los Obreros”, *Claridad*, Vol. 5, No. 126, Santiago de Chile, 1924.